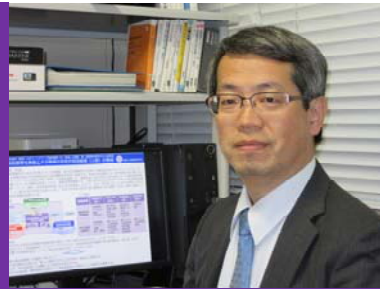


最前線レポート

新居浜高専は、国立高専機構の「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブ支援対象事業に採択され、平成29年度から「社会実装教育を基盤とする地域の次世代型技術者(人財)の育成」という新たな取り組みを始めました。今回の最前線レポートでは、この事業の内容について、プロジェクトリーダーである生物応用化学科の衣笠巧教授にお話を伺いました。

「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブ 社会実装教育で 新居浜から 世界をリードする



生物応用化学科 衣笠 巧 教授

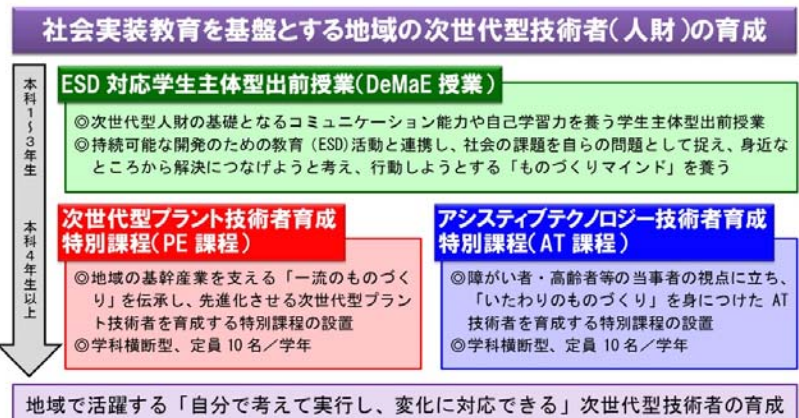
分野：
分離工学
担当科目：
化学工学
反応工学
プレゼンテーション
技法
応用化学実験
など

◆「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブとは何ですか？

「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブとは、各高専が学校の強みや特色を伸ばすことを目的として取り組む活動を、国立高専機構が支援する事業です。高専機構は、平成31年度からの第4期中期目標期間で各高専の在り方や役割を見つめ直すよう求めており、平成29、30年度をその準備期間と位置づけて「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブというスタートアップ事業を計画、文部科学省がこれに予算を重点配分しました。その配分の仕方はかなりメリハリをつけたもので、これまでの実績を十分に活かしているか、育成する人物像を明確にイメージできているか、目標は妥当で実現性があるか、などの観点で厳しく審査されました。新居浜高専は、本校の強みである「地域への貢献」を軸として、「**社会実装教育を基盤とする地域の次世代型技術者(人財)の育成**」を申請し、採択されました。これは国が、本校の目指す技術者教育の成果を期待し、応援するという強力なメッセージです。

◆具体的な事業内容を教えてください。

「社会実装教育」とは、学内だけでなく社会と連携して進めていく教育のことです。学生が教育の成果(例えばものづくりの成果物)を社会に発信し、社会から評価を受けて改善したものを再び社会に発信する。これを繰り返して、ものづくりを通じた具体的な問題の発見と解決を目指します。また「次世代型技術者(人財)」とは、「自分で考えて実行し、変化に対応できる人財」と定義しています。今後ますます変化が激しくなっていく社会で主体的に活躍できる技術者の育成を狙っています。本事業は社会実装教育による次世代型技術者(人財)の育成を3つの部門で実施していきます。



イニシアティブ事業の全体概要

「ESD 対応学生主体型出前授業(DeMaE 授業)」は、これまで実施してきた出前授業を、小中学校で取り組んでいる持続可能な開発のための教育(ESD)と連携させてものづくりマインドを育もうとする事業です。次世代型技術者(人財)に必要な基礎能力を養うことを目指しており、主に本科1~3年生を対象としています。

「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE 課程)」は、地域の基幹産業を支えるプラント技術者を育成するための課程です。えひめ東予産業創造センターの「プラントメンテナンス人財育成事業」とも連携して、企業技術者を講師とする超実践的な講義・実習で一流のものづくりに触れることにより、プラント産業を担う人財を育てます。

「アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT 課程)」は、障がい者や高齢者など支援を必要とする方のための技術を開発するアシスティブテクノロジー技術者を育成するための課程です。歴史ある介護工学研究会の活動実績をもとに、リハビリ病院や福祉施設、特別支援学校とコラボレーションして、いたわりのものづくりに取り組みます。

PE 課程とAT 課程は4年生以上を対象として、29年度は試行的に、30年度以降は正式に授業を開講します。

◆今後への期待を聞かせてください。

本事業のキャッチフレーズは「**社会実装教育で新居浜から世界をリードする**」です。本格実施は来年度からなので、たくさんの方に参加してもらい、世界をリードする技術者を目指してほしいと思っています。また学外の方、特に小中学校関係、プラント産業関係、福祉医療関係の方には、本校が取り組んでいる事業を知っていただき、それぞれの分野で協力の和を広げ、一緒に地域を盛り上げてくださることを期待しています。

—ありがとうございました。



出前授業の様子